

答 申 書

令和3年6月18日、本調査委員会に諮問のありました令和2年度に新たに文部科学大臣の検定を経た「社会（歴史的分野）」の教科用図書について、旭川市教育委員会が定めた教科用図書の採択方針に従い、公平かつ厳正、慎重に調査研究を行った結果を別紙のとおり答申いたします。

令和3年7月21日

旭川市教育委員会 様

旭川市教科書調査委員会

委員長 福澤 秀

観 点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
<p>学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等</p> <p>取扱内容</p>	225・自由社	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・712	新しい歴史教科書
<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や元号、様々な時代区分についてのまとめから年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、堺の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、歴史の調べ学習の事例を示した「地域の歴史を調べる」のページから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、奈良時代では唐の律令制度との違いに着目して、日本の制度の独自性を考察したり、単元のまとめでは「古代とはどんな時代だったのだろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、鎌倉時代では武家政権の確立の過程に着目して、武士の政権の特徴を考察したり、単元のまとめでは「中世とはどのような時代だったのだろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸幕府の経済政策の変遷に着目して、幕府の改革がもたらした功罪を考察したり、単元のまとめでは「近世とはどんな時代だったのだろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、明治政府の外交の展開に着目して、不平等条約改正の経緯を考察したり、単元のまとめでは「近世前半（幕末・明治）とはどんな時代だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、日本の高度経済成長の要因に着目して、社会や外交に与えた影響を考察したり、単元のまとめでは「現代（昭和後半・平成）とはどんな時代だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、明治維新の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、当時の世界と日本の状況をもとに、日本が近代化を成功させた理由について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
	<p>○ 内容の構成・排列については、「歴史のとらえ方」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史との対話」は12ページ、「近世までの日本とアジア」は130ページ、「近現代の日本と世界」は140ページ、その他は21ページであり、総ページ数は303ページで、前回より約11%増となっている。</p>			

<p>使用上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道と北東北にある大型集落跡や貝塚，大規模ストーンサークルなどの縄文遺跡を取り上げる中で，垣ノ島遺跡の漆塗土器の写真を掲載したり，アイヌの人たちが行っていた交易に関する資料や地図を掲載し，交易の範囲や交易品について説明したりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「チャレンジ」で，単元の学習の終わりに振り返る活動や，「人物クローズアップコラム」で，学習内容を深める活動を掲載するなど，主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり，全ての生徒が学習しやすいよう，子どものキャラクターを配置したりするなど，使用上の便宜が図られている。
<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については，室町時代の学習におけるアイヌ民族の交易活動や，江戸時代の学習におけるアイヌ民族と松前藩の交易が扱われている。北方領土については，明治時代の学習の本文や，第二次世界大戦後の学習の本文及びコラムにおいて取り扱われている。 ○ ICTの活用については，「調べ学習のページ 日本人の名字の由来を訪ねてみた」において，調査の方法の1つにインターネットの活用を紹介するなどの工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については，序章で小学校で学習した歴史上の人物などを振り返る活動を設定したり，各章の扉に「登場人物紹介コーナー」を設け，小学校で学習した人物を中心に構成した年表を配置したりするなど，中学校の歴史学習に対する興味・関心が高められるよう配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう，章末に時代や人物の特徴などについて複数の視点で比較する「時代比較の問題」や「人物比較の問題」を設定するとともに，歴史上の人物の考え方の相違点等について話し合う「意見交換会」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。 ○ 複数の資料から適切な資料を選択したり，資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう，章末の「調べ学習のページ」において，写真や絵画などの資料から読み解くことができる歴史的事象を紹介するなどの工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し，概念などに関する知識として獲得することができるよう，章末に各章で学習した知識の整理を行う「復習問題のページ」を設定するとともに，対話を通して時代を大観させ，まとめ図を通して構造化する「対話とまとめ図のページ」を設定するなどの工夫がなされている。
<p>その他</p>	